

枯蓮

松岡隆子

七曜の忙しさ小鳥来ること
も
約までの時間まだある銀杏散る
横書きの手紙は苦手文化の日
枯野に椅子まるく並べて何やある
卓に落つ木の実こつんと森の茶屋
枯はちす風が吹かうが吹くまいが
枯蓮の高きはなほも枯れゆける

存分に吹かれみるみる枯蓮
枯葦の倒れきつたるときに風
思ひ出の数には足らぬ帰り花
やり残すことのあるこれ夜の落葉
枯るる夜の今日がしづかに遠くなる

師走の日々が慌ただしく過ぎていく。今月は発送日が一週間繰り上がるのでそれに合わせての校了に編集部共々大わらわの状態である。その最中五周年記念事業の一つである「栞」俳句手帖の制作準備も始まった。今回の俳句手帖は会員全員の一句を掲載するのだが、その選句も終わったところだ。木内編集長の予選を基に皆さんの一句を選ぶのは楽しい作業だった。特別作品20句の原稿も送られてきている。本号が校了となったら選句に取り掛かろうと思う。だんだん大会モードになって来た。新しい年と共に四月の再会が待たれる。